

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	鳥取県
-------	-----

、学校の概要 (平成15年度4月現在)

岩美町立岩美北小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	3	2	2	2	2	15	18
児童数	44	44	62	43	53	57	4	307	

、実践研究の概要

1、主題(テーマ)

一人ひとりが自分の伸びを確かめながら楽しく学習に取り組む子ども - 国語・算数を中心にした基礎学力の定着を図るための 効果的な指導法について -
--

2、内容と方法

(1) 実施学年・教科(選択した理由を付すこと)

1～6年 算数(内容の理解や定着に個人差が出やすい教科であるため)
1～6年 国語(言語による力は全ての教科の源となる分野であるため)

3、年次計画

平成 14 年度	テーマ
	めあてを持って、生き生きと活動する心豊かな児童の育成をめざして
	仮説
	読み書きそろばんや学習指導要領の指導内容を基礎基本の学力ととらえ、「みんなで取り組む」「ねばり強く取り組む」「保護者を巻き込む」をキーワードにして、学校教育のあらゆる機会をとらえて学力の向上を図っていくと、児童の学力が伸びてくるものと考え。
	研究内容・方法
	読み書きそろばんや学習指導要領の指導内容を基礎基本の学力ととらえ、スキルタイムや放課後さわやかルームの設置や少人数指導などの指導体制、また国語や算数の指導や評価の方法の改善に意欲的に取り組んでいく。そうすることによって、教師の指導意識に変容が見られるようになり、児童の学力が伸びてくるものと考え。 特に、スキルタイムには、国語では漢字の力を付けること、算数で

は100ます計算を中心にして計算力を付けることに努力する。また、自主活動の時間を有効に使えるように工夫し授業時間の確保に努める。地域保護者に対しては、学力向上に関する通信を出したりして、保護者への啓発を図っていききたい。

平成
15
年度

テーマ

一人ひとりが自分の伸びを確かめながら楽しく学習に取り組む子ども
- 国語・算数を中心にした基礎学力の定着を図るための
効果的な指導法について

【平成15年度よりより学力向上に沿ったテーマとなるように、上記のようにテーマを変更した】

仮説

平成14年度と同様、読み書きそろばんや学習指導要領の指導内容を基礎基本の学力ととらえ、「みんなで取り組む」「ねばり強く取り組む」「保護者を巻き込む」をキーワードにして、学校教育のあらゆる機会をとらえて学力の向上を図っていくと、さらに児童の学力が伸びてくるものと考ええる。

研究内容・方法

平成14年度の成果と課題に基づき、昨年度の実践を踏襲する形で、読み書きそろばんや学習指導要領の指導内容を基礎基本の学力ととらえ、スキルタイムや放課後さわやかルームの設置や少人数指導などの指導体制、また国語や算数の指導や評価の方法の改善にさらに意欲的に取り組んでいく。そうすることによって、昨年度以上に教師の指導意識に変容が見られるようになり、児童の学力が伸びてくるものと考ええる。

中でも、スキルタイムには、国語では漢字の力を付けること、算数では100ます計算を中心にして計算力を付けることに努力する。また、自主活動の時間を有効に使えるように工夫し授業時間の確保に努める。平成15年度は、地域保護者に対して学力向上に関する通信を出したりする実践を強化していききたいと考えている。

平成
16
年度

テーマ

一人ひとりが自分の伸びを確かめながら楽しく学習に取り組む子ども
- 国語・算数を中心にした基礎学力の定着を図るための
効果的な指導法について

仮説

過去2年間と同様、読み書きそろばんや学習指導要領の指導内容を基礎基本の学力ととらえ、「みんなで取り組む」「ねばり強く取り組む」「保護者を巻き込む」をキーワードにして、学校教育のあらゆる機会

をとらえて学力の向上を図っていく。そうすることによって児童の学力が着実に伸びてくるものと考えている。

研究内容・方法

過去2年間同様、読み書きそろばんや学習指導要領の指導内容を基礎基本の学力ととらえ、スキルタイムや放課後さわやかルームの設置や少人数指導などの指導体制、また国語や算数の指導や評価の方法の改善に意欲的に取り組むとともに、今後も継続して取り組めるものにしていくための研究も始めていきたい。

特に、スキルタイムには、国語では漢字の力を付けること、算数では100マス計算を中心にして計算力を付けることに努力するとともに、継続性のあるものにするために指導の簡略化や取り組みの生活化を図っていきたい。また、過去2年間を踏襲する形で、自主活動の時間を有効に使えるように工夫し授業時間の確保に努める。地域保護者に対しても、学力向上に関する通信を出したりして、保護者への啓発を図っていくとともに、家庭学習充実プロジェクト(仮称)を立ち上げ、宿題を必ずやってくる児童をつくりたいと考えている。そして、このプロジェクトが児童のつまずきの早期発見と早期解決に役立てられるように体制作りを進めたいと思っている。

(3) 研究体制

研究推進委員会(学力向上フロンティア事業に関する研究推進部)

各学年部会 ————— 国語部会
算数部会

、平成15年度の成果及び課題

成果

・朝読書の時間を設定したことにより、読書好きな児童が増えた。児童にも落ち着きが見られるようになった。国語科における読解力の養成にも役立っていると考えている。

・スキルの時間に、国語では全漢字音読プリントを活用して音読や書き取りを重点的に行い成果が上がった。算数では100マス計算を中心に実施し、確実に計算力が伸びてきた。

・時間を計った1分間スピーチやスピーチ一覧表の活用、また音読集会や各種発表会で児童の発表力がついてきた。物おじせず発表する児童が増えてきた。

・「見たこと作文」や100マス作文の実施により、書くことに対する抵抗感がなくなってきた。作文や児童詩、短歌や俳句や川柳などの各種コンクールにもたくさん入賞した。

・書写力、特に毛筆習字の書写力が見事に向上し、コンクールではたくさんの児童が上位入選を果たした。

・算数では少人数指導に取り組んだ。多くの児童が好感を持って少人数指導を歓迎している。算数が好きになった、分からなかったことが分か

るようになった、丁寧に教えてもらえる、リラックスして学習できる、など好評である。また、週に2回、放課後さわやかルームを開設し、苦手な分野の指導に当たったり、児童の悩みに答えたりしている。(夏休みにはさわやかスクールを実施した。)

・学力向上フロンティアスクールの指定を受けて先生方の指導意識が高まってきた。教職員の意識の変容が見られたことが一番の成果かもしれない。特に、評価計画をもとに授業に臨むようになってからさらに変容があったと考える。

課題

・本年度実践してきたことが本当に有効に働いているか検証しなくてはならない。この報告を書いている1月末時点では、まだ数値的な成果が求められない状態である。それらが出そろった時点で課題を明確にしていきたいと考えている。研究の歩みは間違った方向ではないと考えているが、地域保護者連携を最重要課題として、さらに発展充実するように研究を推進していきたいと考えている。

、学力把握のための学校の取組

毎月の月例テスト(年8回実施)

鳥取県版学力診断テスト(国語・算数、年1回)

鳥取県版基礎学力調査(3年-国語・算数、6年-国語・算数・理科・社会、年1回)

AAIテスト(年1回)

NRTテスト(年1回)

、フロンティアスクールとしての成果の普及について

・研究会、説明会等の開催実績

研究会：岩美町教育研究発表大会

日時：平成15年10月31日(金)

場所：岩美町立岩美北小学校

テーマ：一人ひとりが自分の伸びを確かめながら

楽しく学習に取り組む子ども

- 国語・算数を中心にした基礎学力の定着を図るための効果的な指導法について -

対象：郡町内の小中学校ならびに鳥取県東部地区一帯の小学校

・HP作成等の工夫の実績及び今後の予定

平成16年度中にはホームページを作成したいと考えている。

チェック項目について

本校は	14年度からの継続校	である
学校規模は	13～15学級	である
指導体制は	少人数指導　TTによる指導 その他　一部教科担任制	をとっている
研究教科は	国語　　数学（算数）	である
指導方法の工夫改善に関わる加配の有無は	有	である